

『チャレンジは自分を成長させる』

日野高等学校 1年 市川 美心

チャレンジとは、単に新しいことに挑戦するという意味では私はないと思います。それは、今までの自分を超越するための「心の戦い」でもあります。挑戦する中では、思うようにいかず、あきらめたくなる瞬間もあります。しかし、そんなときこそ自分の本当の強さが試されるのではないのでしょうか。

私は幼いころから体を動かすことが好きで、小学校 5 年生の時にスケートボードを始めました。当時はとにかく楽しくて、夢中で滑っていました。しかし、ある日、練習中にいつもできていた技が急に怖くなり、途中で止めてしまいました。その時、足が引っかかって2メートルほどの高さから落下してしまい、胸とお腹を強打しました。息ができないほどの痛みで、とても怖かったのを覚えています。それ以来、スケートボードをすることに対して恐怖心が生まれ、心の底から楽しめなくなってしまいました。練習で失敗したり、他のスケーターと自分を比べたりするうちに、送り迎えをしてくれる家族にも申し訳なく感じ、「自分はダメだ」と、ネガティブなことばかり考えるようになりました。練習に行かないと技ができなくなる不安、応援してくれている人たちにどう思われているかを気にして、毎日がとても苦しかったです。

そんな私を支えてくれたのが、仲間や家族でした。「できることから始めよう」「今できることをやってみよう」、そう声をかけてもらい、私はもう一度スケートボードを始めたころの気持ちを思い出しました。基礎から練習をやり直すうちに少しずつ滑れるようになり、またスケートボードが楽しいと感じられるようになりました。その経験を通して、転倒による恐怖心こそが、挑戦することを止めていた原因だと気づきました。怖さに向き合い、考え方を変えることで、私は再びチャレンジする勇気を取り戻しました。この経験から、「チャレンジすることこそが、自分の成長につながる」ということを学びました。

しかし、楽しいスケートボードライフにも再び試練が訪れました。アメリカでの強化練習を目標に努力を重ねてきましたが、出発直前にアクシデントが起き、急きょ帰国することになりました。帰り道では親子で涙が止まらず、嗚咽しながら帰宅したのを今でも覚えています。さらに追い打ちをかけるように、茨城県で開催された全日本大会の練習中に頭を強く打ち、全身けいれんを起こして救急車で搬送されました。医師からは、「次に頭を打ったらセカンドインパクト症候群になる」と診断されました。一昔前の私ならきっと心が折れて立ち直れなかったと思います。けれども、あの時の経験を通して「失敗や恐怖に負けない心」を学んだ私は、どんな困難の中でも前を向くことができました。そして、あきらめず努力を続けた結果、全日本大会への出場を果たすことができました。オリンピックを目指す選手たちや、世界で活躍するスケーターたちと肩を並べて滑り切った時、これまでの努力と苦しみがすべて報われたように感じました。

ここまで頑張ることができたのは、私一人の力ではありません。どんな時も励まし、支え続けてくれた仲間や家族の存在があったからこそ、挑戦を続けることができました。今では、スケ

ートボードは私にとって「挑戦する勇気」と「成長する喜び」、そして「支えてくれる人の大切さ」を教えてくれる、かけがえのない存在です。これからもスケートボードとともに、自分らしく挑戦を続けていきたいです。